



計画部 指導普及課

10月4日(木)に、関東森林管理局と独立行政法人森林総合研究所林木育種センターが全国初となる「林木ジーンバンク協定」を締結しました。

この協定は、国有林野において森林生態系に係る生物遺伝資源を広範に保全・管理している関東森林管理局と、林木遺伝資源に関する知識と研究実績を有し、また、林木ジーンバンク事業の実施機関である林木育種センターが、相互に協力して、一層の戦略的な林木遺伝資源の収集・



左が林木育種センター所長、右が関東森林管理局長

保存の強化及び収集・保存した生物遺伝資源の関係機関への提供を推進することを目的としています。

協定の締結式では、岡田局長から「森林生態系保護地域や林木遺伝資源保存林などの保護林における、最新の研究成果に基づいた林木遺伝資源の適切な保全の推進や育種センターが開発した研究成果の共有・技術支援を受けることは、当局の職員の技術向上にもつながり、森林の生物多様性の保全に向けた取組を加速化するものとして意義深い」、井上所長から「当所においては、エリートツリーの開発や次世代新品種の開発を進めており、国有林への活用を期待するとともに国有林の広大なフィールドを活用し、遺伝資源の収集・保存の強化と合わせて、更なる研究開発の質を高めたい」との挨拶がありました。

今般の協定締結を契機として、育種センターと国有林とがより一層緊密に連携し、ジーンバンク事業の推進はもとより、多くの成果が国有林関係者へも波及することを期待しています。

森林空間総合利用等について

計画部 国有林野管理課

関東森林管理局では、国有林野の中から美しい森林や山岳、渓谷、湖沼などの景勝地、野外スポーツに適した森林空間等を「レクリエーションの森」として自然休養林、自然観察教育林、森林スポーツ林、野外スポーツ地域、風景林、風致探勝林等282箇所を設定しています。また、レクリエーションの森の中に、昭和62

年度から民間活力を活用した自然とのふれあいの場及び保健休養の場など、年間を通じての利用や滞在が可能なさまざまなレクリエーション施設を整備した総合空間総合利用整備事業(ヒューマン・グリーンプラン)を実施しています。

首都圏から比較的近くにあり、ウインタースポーツを満喫できる森林空間総合利用地域や自然休養林をご紹介します。

裏磐梯デコ平 森林空間総合利用地域 (福島県)

会津若松市の北東約30km、通称「裏磐梯」に位置し、山形県境の西大嶺(1982m)の南山腹に広がる高原(デコ平地域)にあり、冬季

の豊富で良質な降雪を利用したスキー場や、デコ平湿原をめぐる遊歩道、ホテル等が設置されています。スキー場は初心者から上級者まで楽しめるスキーコースとなっており、春から秋にかけてはゴンドラや遊歩道を利用しての花畑の観察や湿原の散策を楽しむことができます。また、周辺には、磐梯山、五色沼、檜原湖等の著名な観光地もあり、春季の新緑、夏季は冷涼の中で森林浴、秋季の紅葉等には多くの観光客が訪れています。



グランデコススキー場